

実践記録（小5・外国語）

1 ねらい

初めて会う外国の人に自己紹介をすることができるようにする。

2 手立て

- ・ 身に付けた言葉を生かす場面を設定することで、主体的に外国語を用いてコミュニケーション活動に参加できるようになると考えた。
- ・ 日常実践…タブレット端末を活用した、「個別最適な学び」を取り入れた学習。児童がタブレット端末を使って、学びたい教科やなりたい職業に関する単語やセンテンスの発音練習をする。
- ・ 授業実践…自己紹介で伝えたいことを、タブレット端末を使って情報収集し、資料作成する。資料を基に、外国語アシスタントに自己紹介をする。

3 実践の様子

(1) 日常実践

学習の始めに、教科書に付属している「デジタル教科書」のメトロノーム機能を活用して、英単語発音練習をした。学習が進むにつれ、児童は自分が苦手にしてきた単語や、上手に話せるようになりたいセンテンスが明確になってきた。そこで、教科書に掲載されている「QR」コードを読み取り、タブレット端末で音声を聞き、個別で発音練習をする活動を行った。また、タブレット端末学習と並行して、友達とスピーチ練習することで、楽しい雰囲気をつくりながら、コミュニケーションを図る姿が見られた。【資料1】



【資料1】発音練習の様子

(2) 授業実践

学習のまとめとして、外国語アシスタントに自己紹介をすることを伝えた。児童が単元の目標に迫ることができるように、Unit 1「名前や好きなもの・ことを伝えよう」Unit 3「学びたい教科やなりたい職業を伝えよう」を基にしながら、発表用カードを作成するように伝えた。タブレット端末を使って、必要な情報収集し、資料作成を行った。発表用資料は児童の発達段階上、ポスター（紙媒体）でまとめた。さらに児童は、Cosmetologist（美容師）など、発音が分からない単語は、翻訳アプリを使って調べていた。その後、ポスターを使って外国語アシスタントと友達に発表する場面を設定した。児童は、伝えたい内容を考えて自己紹介することができた。【資料2】



【資料2】自己紹介をする児童の様子

4 成果（○）と課題（●）

- タブレット端末を活用し、「個別最適な学び」を取り入れた学習を導入したことで、話せるようになりたい言葉を主体的に学習できるようになり、児童の話す力を高めることができた。
- 「タブレット学習は楽しいけど、話すことは苦手」「言いたいことがうかばない」など、実際どう言えば良いか分からない児童が見られた。それは、「自信が無い」「話したくない」という気持ちの裏返しなのではないかと考えた。今後は、児童が自信をもってコミュニケーション活動に参加できるための授業づくりが必要だと感じた。